

7回生 香月務さん (佐賀市出身)



つながりと関わりがつくる 「おかし」の仕事

- 1990年 4月 弘学館中学校入学
- 1996年 3月 弘学館高等学校卒業
- 1997年 4月 早稲田大学商学部入学
- 2001年 3月 早稲田大学商学部卒業
- 2002年 12月 スイス University Center
“Cesar Ritz” PostGraduateDiploma 取得
- 2003年 3月 株式会社ニューオータニ入社
- 2010年 1月 株式会社 北島 入社
- 2014年 8月 取締役 マネージメントサービス部長

(2019年2月現在)



高校3年秋 羽田孜元首相と

かけられた言葉が いつまでも胸に…

中学生時代の月曜日の先生の声
「どうしたー？」文字では表現できない先生の声が毎週のようにかけられていました。家に帰りたくて寂しさいっぱいの無表情な姿にどうしようもなく声をかけてくださっていたことでしょう。

そうした先生方の心からの声は社会に出た時に、また記憶とともに響き、励ましになり、やがて自分が発する言葉にもなりました。

高校の途中まで勉強が手に付かず成績が上がり始めるのはようやく高校2年生の夏。それも2ヶ月の病気療養の後。支えられたのはまた先生の声。数少ない正答でも「あの問題はよく解けてた」とピンポイントでも評価してもらえていることが道を開いてくれました。自信ゼロの人間にならないようにしてくださいのだったのだと思っています。

ホテルマンから家業へ

寮生活の毎日、憧れて眺めていた東京のホテルの写真が人生の起点になりました。ホテル時代にリニューアルの担当をしたのがまさに眺めていた写真の客室。寮生活の1泊ずつがホテルマンに導いてくれたのです。営業マンとしては国賓で来日されたシンガポール大統領をレッドカーペットでお迎えしました。大きな役目。修学旅行で行った時に見たシンガポールのセントーサ島の景色が浮かびます。

家業である菓子屋に戻って、販売・製造の両輪を支えるスタッフと過ごす毎日。みんなとつながって、一緒に関わって、新しい何かに気づく毎日が過ごせているのは、長くも感じた6年間で学校・寮それぞれで過ごし、接した人たちからもらった目に見えない何かの力だと思っています。

香月務さんのとある一日

7:40 出勤

8:45 工場の状況を確認

10:30 プロジェクト会議

13:30 取引先との打ち合わせ

15:00 店舗や卸先を巡る

17:00 スタッフと打ち合わせ

18:00 会合に向かうときも

後輩へのメッセージ

「急がば回れ！」…負けることも、うまくいかないことも情けないことも、いつの間にかにすべてがエネルギーになっています。人生、不思議なものです。弘学館ならではの温もりがそうさせてくれたのだと思っています。